



福島放射線衛生調査の決定版

県民に健康被害なし、20km 圏内も復興できる

高田 純 理学博士

札幌医科大学教授 放射線防護学

昭和20年8月6日1発のウラン爆弾で壊滅した広島は、2か月後の10月には市内電車がほぼ全線再開するなど復興は順調でした。500m圏内で辛くも生存した78人も障害を克服し、死亡時平均74歳と長生きしています。一方、平成23年3月11日、地震で核反応を停止しながらも津波に襲われ冷却機能を失った福島第一軽水炉原発は、放射線死亡ゼロ人の低線量事象ですが、4年経った今も、20km圏内は復興していません。しかも全国の全ての原発が停止したままです。両者の違いは、明らかにおかしいと思いませんか？

震災直後から4年間、私たちのグループは福島第一原子力発電所20km圏内の公衆を中心として、線量調査を継続してきました。オンサイトを含めて、放射線事故としては急性放射線障害の生じない外部被曝でした。特に強制避難させられた住民の実効線量は10mSv以下で健康影響は無視できるレベルだったのです。

軽水炉事故は、チェルノブイリの黒鉛炉事故に比べて圧倒的に低線量であることが福島事象でも確認されました。前政権が居住困難とした20km圏内の人の線量評価は科学的に誤りです。空間測定から人の線量を推定し年間50mSv以上と断定しました。

しかし私たちの2泊3日の現地での個人線量測定と環境セシウム面密度測定の経年変化から、年間線量を推定すると、震災から4年目に多くの地点で10mSv未満、一部区域で0.5mSv以下です。現地の放射線は大幅に減衰しています。20km圏内は帰還可能な線量範囲であり、政府の強制避難命令の継続は重大なる人権蹂躪です。

昨年12月の総選挙で延期となった放射線科学会議SAMRAI2014は、今年3月24日衆議院第一議員会館で開催され、国内外の科学者5人が福島の放射線について報告しました。私はそのメンバーの一人で、会議の結論は、本日の報告と完全に一致しています。正しい放射線の知識の普及、政治的判断で強制した食品中の放射能基準を前原子力安全委員会の指標による基準に戻すこと、福島20km圏内に科学の目を入れ復興させる、停止させられた原子力施設の再稼働など7項目を、日本政府へ提案いたしました。

中央アジアでは中共の未曾有の核爆発で19万人以上が死亡、第五福竜丸事件の真相は売血輸血による肝炎であるのに、唯一の核被爆国と独断し日本では真実の報道がなされていません。今こそ、核放射線について正しい知識を持って、福島20km圏内を復興再建する時ではないでしょうか。



文献
1 「世界の放射線被曝地調査」講談社 2002. 2 「福島 嘘と真実」2011. 震災翌4月の調査の緊急出版. 3 「放射線ゼロの危険」. 4 「決定版 福島の放射線衛生調査」2015. 4年間の結論. 共に高田純著、2~4 医療科学社. 5 放射線防護情報センター <http://rpic.jp/> SAMRAI2014 の報告などこのサイトにあります。